



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

— あいなん音故地新 — 人の素晴らしさ。

1960年代から80年まで活躍し、さまざまなアーティストに影響を与えたジャマイカ出身のミュージシャン、ボブ・マーリーはこんな言葉を残している。

"人の素晴らしさはどれだけお金持ちになったかではなく、誠実さと、どれだけ周りの人に前向きな影響を与えられるかだ"

私は音楽と鍼灸で多くの出会いがある。会う人みんなに、会うと元気になる！と言われることは難しくても、一人でも多くの人にそう感じてもらえたらええなあと思う。まだまだ未熟な人間やから、言葉の使い方を間違って意図せず人を傷つけたりすることもあるけど、話す元気になる、と言ってもらえるような人になりたい。

出会いの中には良いものもあればそうじゃないものもあって、嫌な思いをするたびに私は落ち込んでしまうんやけど、そのたびに自分と会った人がこんな気持ちになってなかったらええなあと思う。

人を前向きにできる人は幸せの種をまける人。知らず知らずのうちに飛ばした綿毛が誰かの中で育て咲いて、いつかそのきれいさに心救われる日が来るやろう。

(テノヒラkiku)



本日！海日和!! vol.132 「満腹！満腹！」

秋もめっきりと深まり、鍋料理が恋しい季節となった。サツマカサゴを食べる習慣は愛南町にはないが、鍋料理にもよく合う魚らしい。いかつい姿に似合わず、肉は白身で、おいしい出汁^{だし}が出るそう。

鹿児島県あたりに多く生息しているので、サツマカサゴという名前が付いたらしいが、愛南町でもよく見かける。15cmほどの大きさで、海底の砂地や周辺の岩場で生活している。体が保護色になっているので砂や岩と見分けがつかない。気付かずに近づいた魚を大きな口で丸飲みにしてしまう。

瀬の浜で潜っていると、オレンジ色がやけに目立つ個体を見つけた。不思議に思い近づいてみると、なんと口から魚の尾ひれが突き出ている。どうやら捕まえた魚



【魚を丸飲みにしたサツマカサゴ】

が大きすぎて、丸飲みができなかったようだ。飲み込んだ魚の形が分かるほど腹の皮が伸び切っている。それにしても大きな魚を飲み込めるものである。

たくさんの魚を食べて丸々と太った愛南町産のサツマカサゴを一度、味わってみたいものだ。ただし鋭い刺^{とげ}には毒があるので要注意！

(撮影地：瀬の浜) 愛南サンゴを守る会 西尾知照^{ともてる}